

早稲田大学ラグビー蹴球部とT大学ラグビー部の戦術比較 Comparison with rugby tactics on WASEDA university and T university.

1K09B098-9

指導教員 主査 太田 章 先生

佐藤 廉也

副査 島田 陽一 先生

【序論 緒言】

私は5歳の時に初めてラグビーに触れた。小学・中学・高校とラグビーを続け、憧れていた早稲田大学ラグビー蹴球部に入部することができた。当時の早稲田は2007年度、2008年度とラグビー大学選手権2連覇を達成しており抜群の強さを誇っていた。しかし私が入学した2009年度にはラグビー大学選手権2回戦では20-31で早稲田大学がT大学に敗北している。T大学はそのまま勢いに乗りT大学ラグビー部創部以来初となる全国優勝を成し遂げた。翌年の2009年度、2010年度の大学選手権でもT大学が大学日本一の座に輝き、3連覇を達成している。早稲田は2009年度は大学選手権決勝、2010年度は関東大学選手権でT大学に敗北している。そこで本研究の目的は全国大学ラグビー選手権で3連覇の偉業を成し遂げ強大な戦力を誇るT大学から王座を奪還するためにT大学をあらゆる観点から徹底的に分析をし、私が所属している早稲田大学ラグビー蹴球部の分析データと比較し、その検証結果を元に考察し、我が早稲田大学ラグビー蹴球部がどのように改善・強化していけば全国大学ラグビー選手権で優勝を勝ち取ることができるかを導き出すことを目的とする。

【第一章 早稲田大学ラグビー蹴球部の歴史とT大学ラグビー部の歴史】

本章では両校のラグビー部の歴史を調べ、書き記した。早稲田大学ラグビー蹴球部は94年間という長い歴史があり、とても伝統のあるチームだということが分かった。一方、T大学ラグビー部は創部から42年という歴史があることが分かった。T大学ラグビー部は早稲田大学ラグビー蹴球部の歴史には52年間もの差があることがわかった。

【第二章 早稲田大学ラグビー蹴球部の敗因分析】

本章では早稲田大学ラグビー蹴球部がなぜT大学に敗れてしまうのか、その敗因を過去の全対戦戦績と自分が入学してから直接この目で見た2009年～2012年の対戦から敗因分析をし、考察した。その考察から早稲田がT大学ラグビー部に劣っている部分として(1)圧倒的な体格差(2)選手層の2点であると私は考えた。この2点を含めた敗因分析の結果を参考にしてどのような項目を比較対象にするべきか明確に

した。様々な観点から考え出した結果、(1)環境(2)スタッフ体制(3)選手の体格差(4)選手層(5)練習内容の5点を比較対象にすることにした。

【第三章 早稲田大学ラグビー蹴球部とT大学ラグビー部の比較と比較結果からの考察】

第二章で明確にした(1)環境(2)スタッフ体制(3)選手の体格差(4)選手層(5)練習内容の5点の比較対象を実際に比較し、考察を行った。比較方法としては自分の目で直接見たもの、両チームの公式ホームページから得た情報、T大学ラグビー部の現役部員であるO君のインタビューの内容などを元にしてグラフなどを使い比較した。比較した結果から早稲田大学ラグビー蹴球部は(2)スタッフ制度(3)選手の体格差(4)選手層の3点がT大学に大きく劣っている点であると考えられた。

【第四章 本研究のまとめと早稲田大学ラグビー蹴球部の今後の課題と改善案】

T大学ラグビーと早稲田大学ラグビー部を比較し、検証した結果、以下の4点を早稲田がT大学に勝てない原因として本研究から導き出すことができた。(1)私生活、食生活の充実度(2)スタッフ体制(管理栄養士)(3)選手の体格差(4)選手層(リクルート問題)。早稲田の今後の課題として一番に取り組むことはT大学ラグビー部との選手の体格差の問題を解決することだ。そのための改善案としてはまとめでも挙げられていたように私生活、食生活の充実を図ることだ。現在、早稲田は全寮制ではないため部員全員が規則正しい私生活、食生活の充実を図るのは難しい。まずは選手達に規則正しい私生活、食生活を充実させることがどんなに身体作りの工程において重要なのかを徹底的に叩きこむことが必要である。その意識を改善することで課題である選手の体格差の問題の解決に大きく近づくと考えられた。早稲田が強くなり大学日本一の座を奪還し、また人気を取り戻すことができればリクルート問題も解決しT大学との選手層の差を埋めることができるのではないかと考えられた。